



市議会には歩み寄りの姿勢 広沢名古屋市長 無難な船出

就任以来2度目の記者会見に臨む広沢一郎市長＝2024年12月9日、筆者撮影

名古屋市の前市長・河村たかし衆院議員の市政を「丸ごと継承する」として選挙戦を勝ち抜いた広沢一郎氏が、新市長に就任した。早速の“デビュー戦”となった市議会11月定例会では市民税減税や名古屋城木造復元などの施策継承を明言したが、その姿勢は対立を煽った河村氏とは打って変わって「議会の意見も丁寧に聞く」などと歩み寄りを強調。亀裂が広がる一方だった愛知県の大村秀章知事との関係も修復の兆しを見せる。広沢市政はこのまま無難に進んでいくのか。議員や職員の反応などから、その行方を占う。

■「今はまだ挑発せず？」指摘も……………

「河村さんの品のないところ以外は全部引き継ぎます」。選挙期間中、こんな物言いで聴衆の笑いをとっていた広沢市長。投開票日から5日後の市議会定例会では、さっそく公約に掲げた市民税の減税割合の引き上げや市長給与800万円、保育料の完全無償化など7項目を重点政策に掲げた。

市民税減税については、初日の本会議でこそ減税幅に言及しなかったものの、その後の会見では「特別に意図はない。10%（への引き上げ）を諦めたわけではない」と弁明。河村前市長でも成し遂げられなかった10%の恒久減税実現に意欲を示した。

名古屋城の木造バリアフリー化については

「小型昇降機をできる限り上層階まで設置することにチャレンジし、史実性とバリアフリーを両立させたい」と答弁。「1、2階まで」としていた河村前市長よりも一歩踏み込んだ発言と受け止められた。後日、会見で改めてその考えを問われると「私は基本的には『何階まで』ということを決めるべきではないと思っている」とし、「専門家や障害者らから幅広く意見を聞いた上で最終的に判断したい」との意向を示した。

各公約の実現に向けては「(疑問視する指摘などに) 反論すべきところはするし、妥協すべきところが私の腹に落ちれば妥協することもあるだろう」と柔軟さをアピール。これに